

社会保障こぼれ話

社会保障制度の改正

(アメリカ)

1972年7月1日に、ニクソン大統領は法案HR 15390に署名し、公法92—336号が誕生した。この公法92—336号は社会保障の改正を規定しており、次のような主要な柱を含んでいた。1972年9月から、現金給付は20%引上げられた。この引上げは、正式の給付を受給できない72歳以上の者に支給される特殊な給付にも適用され、この給付は単身者で月額48.30ドルから58.00ドル、夫婦者で72.50ドルから87.00ドルとなった。また、将来における物価上昇に対応させて、諸給付を自動的に調整する仕組みの採用を、改正法は規定している。大統領がとくに強く要求していたこの自動的調整は、全受給者に対して、給付の購買力の給付を保証することとなった。

このような給付の改善と財源調達の関係では、従来の法令は1973年以後に拠出率の引上げを規定していたが、92—336号の改正法による予定拠出率は、老齢・遺族・廃疾保険の場合に、

1973—76年に現行拠出率の4.6%をそのまま実施し、1977—2010年に4.5%、2011年以後に4.35%を予定している（自営業者の拠出率は若干異なる）。もっとも、病院保険では、従来の予定より早いテンポの拠出率上げが予定されている。

拠出と給付の算出対象とされる所得の上限は、1972年に用いられている年額9,000ドルから、1973年には10,800ドルに、また、1974年には12,000ドルに上げられることになっている。なお、1974年以降には、この所得上限は賃金の上昇に対応させて、自動的に調整されることになった。

その他の改正として、保険財政を支える資金の状態にかんする諮問委員会の勧告、拠出率や財政的評価の方式などが含まれていた。

(本稿はアメリカより届けられた公的な資料 *Commissioner's Bulletin* および有力各紙の切抜きによる。付記して感謝の意を表す。)

(平石長久 社会保障研究所)

編集後記

空の美しい季節になった。夕映えの流れる雲も美しい。しかし、それは都市の雑踏を離れた所の話である。空の汚れた都市では、日によって、近くのビルさえもかすんでみえる。プラタナスの葉は、自然の移り変りで色が変わる前に、ちぢれた痛ましい姿になってしまった。その汚れた都市の空の下で、人間はあくせくと歩きまわっているが、人間は植物などよりも強いだろうかそれにしても、空のもっとも美しい季節に、汚れた空の下で生活しなければならないとは、自分で汚したのではあるが、人間とは不幸なものである。この空は再び美しくならないのだろうか？

(平石)

海外社会保障情報 No. 20

昭和47年10月25日発行

編集兼発行所 社会保障研究所

東京都千代田区霞が関  
3丁目3番4号  
電話 (580) 2511~3